

ともに創り出す



同好会ひろば

第259号
H28. 7. 7
No.2

「ともに考え」「ともに学ぶ」フィールドワーク

今年度のフィールドワークは、「ともに創り出す」という同好会の活動基本方針に基づいて、テーマ別に設けられたコースを会員の皆さんが「自ら選択して参加する形」で実施します。

Aコース「名古屋の防災を学ぶ旅」、Bコース「地元産業の魅力にふれる旅」、Cコース「三重県にある施設を巡る旅」、Dコース「名古屋市 地域素材に触れる旅」を用意しました。校種や担当学年等の異なる会員のニーズに幅広く応えることができるようにしてあります。8月5日(金)の1日開催です。

参加者は、日中、コースごとに同じコースを選んだ会員と共に学んできますが、夜には、フィールドに参加した全員が1か所に集まり、それぞれのコースで学んだこと、考えたことを報告する学習会を行います。単に「見る」「知る」だけでなく、見学を通して分かったことを基に、「どのように授業に生かせそうか」を同じコースの人と「ともに考え」、分かったことを伝え合うことを通して「ともに学ぶ」という機会にしようと考えています。

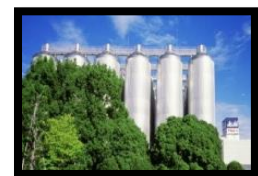


Aコース 「名古屋の防災を学ぶ旅」

主に地震などの自然災害に対する人々の活動を主テーマとし、「港防災センター」や「減災館」の見学や体験活動を行います。

Bコース 「地元産業の魅力にふれる旅」

食や工芸品などの産業について、地元名古屋の魅力を感じられる「ノリタケの森」や「末廣堂」を巡ります。



Cコース 「三重県にある施設を巡る旅」

今年「伊勢志摩サミット」が開催された三重県。その三重県にある「川越電力館」「輪中の里」を巡り、見学や体験活動を行います。

Dコース 「名古屋市 地域素材に触れる旅」

各分野で活用する名古屋市にある地域教材を見つめ、「地方裁判所」や「愛知・名古屋戦争に関する資料館」、「愛知県庁」で案内を受けたり、話を聞いたりします。



【第259号 紙面】

「ともに考え」「ともに学ぶ」フィールドワーク・・・(p1)
5月小学校部会活動報告・・・(p2)
5月中学校部会活動報告・・・(p3)

日々雑感 森 健二先生(天神山中教頭)・・・(p4)
今後の予定・・・・・・・・・・・・・・・・(p4)

今年度、第1回目の小学校部会では、前半に、全小社研名古屋大会の各会場校の実践の検討を行いました。後半は、名古屋市社会科同好会小学校部会長 弥富小学校長 近藤 啓二先生にご講演をしていただきました。

ご講演「15° 上へ」

名古屋市社会科同好会小学校部会長 弥富小学校長 近藤 啓二 先生

私が幕末の会津に興味をもち、好きになるきっかけは、若いころ、早乙女貢の「会津士魂」を読んだことです。早乙女貢も会津の人。会津が朝敵にされたこと、真実を世間が知らないことに憤慨し、詳細な取材をもとに、この本を書き上げました。

八重の桜の主人公、山本八重は、女性ながら銃をとり、鶴ヶ城に籠城して戦いました。明治になって、新島襄と結婚し、また、赤十字での活躍もあって、皇族以外の女性で初めて叙勲を受けます。八重の兄、山本覚馬は、鳥羽伏見の戦いのとき、薩摩藩に捕らえられますが、優れた知識と能力をかわれ、京都府顧問、府議会議員（初代議長）となりました。白虎隊生き残りの山川健次郎は、差別を受けながらも日本初の理学博士、そして東京帝国大学総長となり多くの若者を育てました。

彼ら会津の人々に、私がどうして惹かれていったか。それは、とことん打ちのめされて、たたきのめされても、彼らは決して卑屈にならず、再起の機会をうかがい、未来を見つめて生きたからです。臥薪嘗胆、薪の上に横たわり肝をなめるといふ苦痛に耐え抜きました。

「15° 上へ」は、こうした会津の人々の強い生き方に通じています。日本は、太平洋戦争で各地が焼け野原になりました。しかし、世界があつと驚く復興を遂げました。東日本大震災、復興までに時間はかかるかもしれませんが、でも、必ず乗り越えます。これが、日本人の力、生き方です。

平成16年の全小社で、自分の力不足を感じ、自信を無くしかけていたとき、「15° 上へ」と、当時の校長先生に言われました。「15°」は絶妙な角度なのです。顔を上げていなければ、その苦しい状況を打開する策があっても、助けてくれる人がいても見えません。

皆さんも、この先辛いことやもうだめかなと思うこともあるかもしれませんが、そういうときは、下を向いてはだめです。15° 上を向く。たったこれだけで変わることが確かにあります。共に頑張っていきましょう。



今年度、第 1 回目の中学校部会では、前半に、各分野グループの研究推進計画と第 1 次実践計画の検討を行いました。後半には、名古屋市社会科同好会中学校部会長 黄金中学校長水野信輔先生にご講演をしていただきました。

ご講演「子どもの育ちを支える授業づくりの定石」

名古屋市社会科同好会中学校部会長 黄金中学校長 水野 信輔 先生

社会的事象を理解するためには、たくさんの知識を身に付けなければなりません。他の社会的事象への転用ができる見方や考え方を身に付けることが理解であり、そのために知識を得るのです。また、安易な言葉を使うのではなく、用語を大切にしてほしいと思います。その上で、多面的・多角的に思考・判断する過程を経て、見方や考え方を身に付けられるよう、学習活動・場面・段階をはっきりと区別し設定してほしいです。



中学校社会科において、地理・歴史・公民の 3 分野の関係性を踏まえるべきだと思います。中学校社会科における 3 分野の位置付けは並列ではなく、公民学習は地理・歴史学習の上に位置しています。それゆえ、公民的分野では、3 年間の学習の成果を踏まえて、「態度面」を全面に打ち出した目標を設定することが大切です。

また、社会科には他の教科にはない「多面的・多角的な思考力を育成すること」と「判断力を育成すること」という二つの特性があります。子どもの思考に沿った平易な言葉に言い換えると「吟味する、比較する、関連付ける」ことや「意思決定する、選択する」ことです。このようなことも踏まえ、各分野の特色とは何かを明らかにしてほしいと思います。

部会での議論を活発にするためには、「不十分な点を指摘し合う」ことではなく、「先生が授業を作られていて、ここが苦しかったですよね。その理由はこうですよね」。あるいは、「先生が授業をやられていて、ここは子どもの反応も良くてやりやすかったですよね。その理由はこうですよね」などと、実践者に寄り添った指摘の仕方に改めると議論が深まります。

学習指導案についても、冒頭に「第〇学年〇組 社会科学習指導案」と明記する以上、「単元観→指導観→生徒観」の順番ではなく、「生徒観」を最初に述べるべきではないでしょうか。クラスが変われば当然指導案の内容も変わってくるはずですが、今後、子ども実態に即した授業を是非考えてほしいと思います。

天神山中学校に赴任して3か月あまり、名古屋の東にある自宅から西にある職場へ、名古屋の中心部を横断する自動車通勤にも慣れてきました。天神山中学校は浄心駅から西へおよそ500m、名古屋城や名古屋駅に近い非常に交通の便のよいところにあります。学校の南方には、古くは美濃路と呼ばれた旧街道が東西に走っており、下町風情あふれる街並みが続いています。学区の方にお会いするために出かけると、旧街道沿いに呉服屋さんや和菓子屋さんなどが並び、店の中で忙しく掃除をする方や、作業場で木材の加工作業をする方が見え、この店は昔からずっとここにあったのだろうか、神社の間口が狭いのは間口で課税した名残であろうか、とひとり勝手に想像し、ワクワクしています。

自転車や徒歩で学区を散策すると、自動車の移動では見えないものが見えてきます。地域の雰囲気はもちろん、生徒が集まりそうな場所、職場体験できそうなお店など。そして多くの方とお話をして、また、新たなことを知る。いろいろな知識と経験とが結びつき、地域のこと、歴史のことをもっと知りたいと思うようになってきました。あらためて自分は社会科が好きなんだと感じています。

では、自分はどのようにして社会科が好きになったのだろうか。最初から知識や経験があったわけではない。自分が社会科を好きになったのは、ありきたりの話だが、中学生の頃、ある先生が何気なく「おまえよく知ってるな」とほめてくれたことです。また、先生にほめてもらおうと一生懸命調べたことを覚えています。自分が社会科好きをどれだけ育ててこられたかを振り返っています

今後の予定

<u>7月28日(木) 第2回授業づくり研修会</u>	18:30～	愛知県スポーツ会館
<u>7月29日(金) 小学校部会・中学校部会</u>	18:30～	愛知県スポーツ会館
<u>8月5日(金) フィールドワーク</u>	終日	
<u>8月26日(金) 第3回授業づくり研修会</u>	18:30～	愛知県スポーツ会館
<u>9月8日(木) 小学校部会</u>	18:30～	名古屋市中小企業振興会館
<u>中学校部会</u>	19:00～	名古屋市中小企業振興会館